

## 中国で調書を取られた時の私

医療福祉経営専攻（修士課程）  
医療通訳・国際医療マネジメント分野  
金森愛

以前から楽しみにしていた講義、ようやく Web で受講することができました。私は、医療通訳・国際医療マネジメント分野の学生です。このため、司法や福祉などまだまだ学ぶことばかりで、いつまでたっても他の学生さんに近づけない気がしていますが、今回のお話はこれまでの状況や経緯がとても分かりやすく、刑事司法にも福祉にも明るくない私でも内容がしっかり入ってくるものでした。

先生の調書のお話を聞いて、私が中国で調書を取られた時と全く同じ状況だったことを思い起こしました。

中国では、入国後あるいは都市を移動した到着後、24 時間以内に地元の派出所で外国人登録をしなければならないというルールがあります。ホテルや学生寮にチェックインすると自動的に派出所に登録される仕組みになっていましたが、留学を終えた私は、旅行者ビザで入国した後、ずっと友人宅で過ごし、滞在期限 1 か月を迎えるにあたって出入国管理局に滞在ビザ延長をしに行きました。その時のことです。

「君は今までどこで何をしていたのか。外国人登録のルールを知らなかったのか」と警察官に問われ「牢屋に入るか罰金か」と聞かれたのです。興味本位で「牢屋に入る！」と即答したものの、「だめだ罰金だ」と言われ、1000 元の罰金を 500 元にしてもらったことがありました。

その時の調書の取り方が、村木先生のおっしゃる通りで、警官の中で決まっているストーリーでないと言わせてもらえませんでした。このときは、警官が口述するものを、ヒアリングテストのように筆記しました。「私は外国人登録ルールを知っていましたが、手続きを忘れました」と。

私が「いいえ、知りませんでした。」と反論しても、いいから言うとおりに書けの一点張り。結局は、警官の思うままの調書が出来上がり、署名させられました。

先生ほどの重大案件と比べるのも恥ずかしいですが、先生のご紹介を聞きながら、当時を思い出しました。約 25 年前の出来事です。

新聞の報道などでも、刑務所に戻ったほうがいいのか生活ができ、しっかりと

食事ができ、他人との交流があるとして、わざと犯罪を犯して刑務所に戻る高齢者や生活弱者の累犯者がいることを知りました。また最近では AV 女優には知的障害者が多いと思われるという報道に接し、村木先生の講義内容がすべてつながったような気がしました。

講義の中で紹介された「すべての公的支援は JK ビジネスに負けている」、「完全な寄り添い型である」、「幼い時に厳しい環境で育っているため、危険に対するアンテナが壊れている」という言葉、なるほどと思いました。

優しくしてくれるからとか、頼れる人がいるというところで頼らざるを得ない少女たち。でも「みんな悪い子ではない」という言葉にほっとしています。

私自身が修業する分野と関連して感じたことは、「これって在日外国人やその子供たちにも同じことが言えるのではないだろうか」ということです。社会や学校で言葉が通じない、家庭環境が悪い、生活に困窮している、回りから白い目で見られる、いじめられる、親も社会から孤立している、などなどの複数の問題が存在し、つらさから逃げるために薬に走ったり。

日本という社会に（外国人だから、あるいは外国にルーツを持つから）うまくなじめない子供たちが、非行に走ってしまったり、暴走族ややくざの仲間入りをして万引きや軽犯罪を繰り返すとか、あるいは、技能実習生や研修生名目で安い労働力で働かされる外国人。

制限された環境の中で（言葉は悪いですが）奴隷のように使われ、日本社会になじめないという問題も、根本は同じではないかと思うようになりました。

村木先生から「若草プロジェクト」の存在を教えてくださいました。

私自身が何かプロジェクトを立ち上げるというのは、まだまだ勉強不足で先のことになると思いますが、私は中国語を学んできた経験から、そういった外国（特に中国）にルーツを持つ子供のために、何か協力できることはないのだろうかと考え始めました。

行動に移すまでには数々のハードルがありそうです。ただ、福祉＋外国語に長けた人材になるべく、来年以降は社会福祉士になるための学習を進めてみようと思っています。

取り留めのないお礼のレポートになってしまいましたが、大変な経験をされた後の力強い言葉一つ一つにパワーをいただいたような気がしましたので、お礼のレポートを書いてみました。

ありがとうございました。